

4億 7,000 万円の畜産予算

予算からみた本年度の事業計画

畜産課管理係

本年度は4月から7月まで暫定予算で経過したが、さきの県議会で追加更生予算が議決され本予算が組まれた。

畜産関係の予算は一般会計4億4,178万3,000円で、内訳は人件費1億3,492万6,000円、畜産業費2億4,493万2,000円、畜産試験場費3,950万8,000円、酪農大学校費1,213万5,000円、畜産施設整備拡充費248万7,000円諸支出金779万5,000円である。これに特別会計の2,549万9,000円を加えると総額では4億6,728万2,000円となり、総額では前年度現計に比較して多少の減となっているが、個々について見ると、国庫補助事業として、和牛改良基地造成のための肉牛改良増殖対策費、優良乳用種雄牛確保のための乳用種雄牛性能調査費、乳用牛、肉用牛の現地実証試験費。また単県事業として、畜産経営実態調査費、畜産物流通状況調査費が新規事業として計上され、一歩進んだ畜産行政が期待される。

個々についてその内訳を見ると次のとおりである。

| | (38年度 千円) | (37年度 千円) |
|---------|-----------|-----------|
| 畜産業費 | 244,932 | 257,345 |
| 畜産奨励費 | 46,751 | 52,136 |
| 種畜検査費 | 30 | 45 |
| 畜産技術振興費 | 3,407 | 3,375 |

財団法人岡山県畜産会へ補助金340万7,000円を交付する。これは次のような事業を行なうための助成である。

ア 畜産技術経営診断事業

指導員102名を委嘱し、酪農、和牛、養鶏、養豚の各部門にわたる地区グループ198を指定し、6,188戸の農家を対象に個々の農家の診断とグループの育成強化を行なう。

イ 乳牛の特別事故防止事業の実施

乳牛の事故発生を未然に防止し、酪農経営の安定を図るため、前年度に引続き事故率の高い30ヵ市町村を指定し、集団指導と個別指導を行

ない乳牛事故防止事業の推進をはかる。

ウ、畜産技術研修事業

畜産農家を対象に技術経営の向上に資するため冬期大学を開催し畜産各部門の研修を行なう。

家畜畜産物流通改善費 2,632 3,947

家畜の流通機構改善（特に家畜市場再編整備）ならびに家畜商の指導を強化し講習会等を実施することとしている。

肉畜振興対策費 3,108 2,072

食肉需要の増大に対応して、肉畜の集団産地を造成し、共同出荷と枝肉取引を推進して農家所得の増大をはかるため、農協又は同連合会が肉用素畜を導入し予託事業を実施する場合、導入費の1,000分の30相当額を助成して、事業効果の向上をはかるものでありその対象頭数は次のとおりである。

| | |
|----------|--------|
| 牛 12ヵ月育肥 | 1,000頭 |
| 〃 6ヵ月〃 | 2,000頭 |
| 豚 6ヵ月〃 | 1,000頭 |

肉牛改良増殖対策費 2,140 0

肉牛の改良と増殖をさらに推進するため本年度から新規事業として県内3ヵ所に肉牛改良基地をもうけ、優良基礎雌牛を選定し種雄牛の計画的指定交配を行ない、肉牛としての改良促進をはかる。

和牛生産の技術経営調査研究費 350 0

農業構造改善事業和牛パイロット地区で和牛生産現地実証試験を行なう。

若令肥育試験費 640 400

和牛雄子牛の経済的利用につき合理的飼養方法を試験する、

ブロイラー用鶏飼養標準設定費 500 300

ブロイラー用鶏について、地域における飼養標準の設定を行なうため飼養方法を試験する。

寒冷地の畜産振興費 240,080 22,540

寒冷地その他特殊地帯の営農改善を図るため国の

岡山畜産便り 1963.08

補助を受けて、県有雌牛を購入し40頭を1セットとして貸付し、2産月以降の生産雌牛を返納させるための経費で本年度は次の頭数を導入する。

| | |
|---------|------|
| ホルスタイン牛 | 200頭 |
| ジャージー牛 | 40頭 |
| 和牛 | 160頭 |

和牛振興費 5,064 4,893

県産和牛の改良と増殖をはかるため次のような事業を行なう。

ア 優良種雄牛10頭を導入し血液の更新と家畜の改良をはかる。

イ 和牛の生産改良を効果的に推進するため適地を指定して飼養基盤の整備、指導の徹底、優良牛の保留を行なう事業にたいし補助金を交付する。

肉畜振興費 438 1,281

肉畜の振興と流通機構の早急な整備をはかるため肉畜の共同出荷者に対し助成する。

中家畜奨励費 100 300

優良な種雄山羊の購入貸付を行なう

養鶏振興費 620 500

種鶏の改良と優良初生雛の増殖を図るため種鶏の設定検査、ふ化業者の登録を実施する一方養鶏技術の振興のため万国家さん学会、岡山県養鶏協会に対し助成する。

養蜂振興費 74 74

畜産物販路拡張費 700 570

本県畜産物の販路拡張をはかるため和牛の東北、北海道方面における市場性の調査費が本年度新しく計上された、その他、鶏卵の品質検査、消費宣伝等に要する経費である。

畜産共進会費 596 745

畜産技術研修費 289 326

養豚振興費 1,712 5,228

ランドレース種については種雄豚の購入により血液の更新をはかりながら、一方県指定種豚場を設置して改良繁殖を行なう。ヨークシャー種については県有豚を民間農家に貸付し生産改良基地の造成をはかることにしている。

畜産振興施設設置推進費 70 0

地方競馬全国協会が行なう地域的畜産振興補助事業を促進するためのものである。

畜産経営実態調査費 200 0

農業構造改善事業の主幹となる畜産について、畜産農家経営の実態についてはその調査資料がまだ不十分であるため本年度新規事業として次の調査を行なう。

- 1、多頭羽飼養優良事例調査
- 2、畜産経営農家意向調査

草地造成改良事業費 113,325 111,108

中規模草地改良事業費 30,555 33,966

農業経営の改善を促進するため、粗放牧野等を高度の生産性をもつ草地、または牧野に改良して自給飼料基盤を開発し、家畜の飼育条件を整備して、農家の経営規模の拡大と労働生産性の向上を図る。また、これに伴なう農家所得の増大と畜産の振興を助長させるために本年度は次の事業を実施する。

対象 1地区10ha以上、1団地1ha以上
改良予定面積 300ha

草地利用施設整備事業費 5,370 7,004

中規模草地で改良を行なった団地にたいし、利用効率を更に高め、維持管理を適正に行なうために牧道2,800m牧柵4,500mを設置する。

大規模草地改良事業費 39,593 39,593

利用率の低い土地が集団的に存在する地域の草地改良を行ない。酪農を中心とする農家経営の向上と地域経済を伸ばすために、昭和36年度から農林省の指定地域として蒜山地域に大規模草地を造成しており本年度は次のような計画をしている。

- ア 継続
- | | |
|-----------------|--------|
| 蒜山中、朝鍋、高松、蒜山上団地 | |
| 道路 | 3,490m |
| 飲雑用水施設 | 300m |
| 電気導入 | 800m |
| 牧柵 | 7,000m |
| 牧野樹林 | 10ha |
| 看視舎 | 2棟 |
| 避難舎 | 3棟 |

- イ 新規
- 川上、鳥越、ケヤ木団地

岡山畜産便り 1963.08

| | |
|--------|---------|
| 道路 | 4,270m |
| 草地造成 | 161ha |
| 飲雑用水施設 | 300m |
| 看視舎 | 1棟 |
| 牧柵 | 11,000m |

飼料作物自給化普及費 130 136

飼料作物栽培採種調査費 280 190

飼料作物の地域適応性を調査して優良系純品種の選定と、採種の経済性を調査する。

飼料作物増産利用促進費 22,862 18,175

麦類から飼料作物への作付転換とともに、自給飼料の確保を共同化して行ない、地域別の経営をより合理化し、促進するためにトラクター本体ならびに付属器具をセットとして設置する者に対して補助を行なう。対象は次のとおりである。

ア 酪農経営改善計画樹立市町村で緊急に飼料作物の増産利用事業の実施が必要であるもの。

イ 当該市町村の乳用牛飼養頭数がおおむね 100 頭以上であること。

ウ 事業主体は市町村、農協、生産団体とし事業主体の 1 事業量は施設利用に便利な集団で標準規模は 15ha 程度とする。

エ 事業主体毎に自給率 75%を限度とし、事業実施年度において 75%を超えるものについては対象としない。

オ 大麦およびはだか麦から飼料作物への転換が主体をなす場合は前記採択基準にかかわらずこの事業を実施する。なお補助金の内訳は次のとおりである。

| | |
|----------|-------|
| 1カ所当り事業費 | 750千円 |
| 〃 補助金額 | 375千円 |
| 実施個所数 | 60カ所 |

飼料作物特別指導地設置費 494 336

自給飼料の高位生産をはかるため県内を地域別に分けて、各農家に調査を委託することとしており本年度は従来の継続 40カ所に加えて新規を 24カ所追加した。

草地開発基本調査費 404 404

草地開発資源調査によって草地開発が可能であると認められた土地について地域別利用区分別の経済

的諸条件を調査し草地改良事業の適地を選定する。

飼料作物高位生産性向上事業費 218 216

草地造成改良機械導入費 10,500 9,388

畜産振興計画の推進上、土地基盤の整備は緊急を要するが、耕起、整地、施肥、播種の作業を一連化するため、レーキドーザーおよび付属農具を導入する。

草地改良地区調査計画費 1,200 200

草地開発基本調査で選定された団地について、地域畜産振興計画を勘案して、草地造成事業計画ならびに利用計画を作成するもので本年度は 500ha を対象に行なう。

草地管理用機械費 1,359 60

乳牛育成場の草地管理用機械の購入

小規模草地改良事業費 360 450

団地が 0.5～1ha の小規模地区の草地造成改良費を補助するもので内訳は次のとおりである。

| | |
|------|-------------|
| 対象面積 | 20ha |
| 事業費 | 1ha 当り 60千円 |
| 合計 | 1,200千円 |
| 補助額 | 〃 18千円 |
| 合計 | 360千円 |

酪農振興費 36,136 31,279

世銀借款ジャージー牛導入費 5,132 4,833

生乳共販施設設置事業費 4,876 6,239

生乳の流通改善をはかり、乳価の安定を期するため次の事業を行なう。

| | |
|--------------------|-----|
| ア クーラーステーション設置補助 | 2カ所 |
| イ 牛乳検査施設設置補助 | 4カ所 |
| ウ 簡易クーラーステーション設置補助 | 6カ所 |

乳牛飼料給与基準作成費 1,600 8

県内で生産される飼料について、飼養標準に合致した飼料の給与基準作成のための試験を実施する。

酪農経営調査研究費 150 0

農業構造改善地域内の乳牛指定地区で経営上の問題点について現地実証試験を行なう。

乳用種雄牛性態調査費 1,212 0

乳用牛改良上種雄牛の果す役割はきわめて大きいですが、その遺伝的能力を明らかにし優良種優牛の確保とその高度利用により乳用牛の能力の向上を積極的

岡山畜産便り 1963.08

に推進するため新規事業として県下3ヵ所で性能調査を行なう。

生乳取引調査費 688 0

生乳取引の円滑化をはかるため生乳調停取引審議会を開催する。一方岡山県酪農会議に対しては、その運営の助成を行なう。

乳牛改良増殖事業費 6,650 4,355

乳牛の改良増殖をはかる酪農経営の安定をはかるために、本年度はホルスタイン種雄牛3頭を購入し、国有貸付牛1頭を借り受けることとしており、またジャージー牛の経済能力の検定を実施する。

酪農経営改善指導事業費 2,080 5,120

酪農経営指導の徹底を期するため市町村等に酪農専任技術員を置き酪農の計画を樹立し指導を行なう。

学校給食用牛乳供給事業費 13,740 6,220

乳価の維持と学童の体位向上のため学校給食用牛乳を供給する乳業者にたいし180cc当り3円70銭の補助を行なう。

家畜伝染病予防費 16,208 19,717

家畜伝染病予防費 14,965 16,961

家畜伝染病予防法により家畜伝染病の発生予防およびまん延防止を行なうが、疾病別の内訳は次のとおりである。

| | |
|---------------|----------|
| 結核病及びブルセラ病防あつ | 27,000頭 |
| 牛の流行性感冒防あつ | 8,000頭 |
| 流行性脳炎の防あつ | 500頭 |
| 豚コレラの防あつ | 40,000頭 |
| 気腫疽の防あつ | 1,000頭 |
| ひな白痢の防あつ | 350,000羽 |
| 県外移出の規制等 | |

家畜寄生虫防あつ費 580 470

肝蛭の検査駆除及びダニの駆除を行なう。

特殊家畜伝染性病予防費 663 340

鶏のロイコチトゾーン病、豚のトキソプラズマ病について各種試験調査を行なう。

家畜保健衛生所費 26,179 25,905

家畜保健衛生所運営費 25,833 24,633

家畜保健衛生所(28ヵ所)の活動費でその内訳は次のとおりである。

家畜伝染病の予防

家畜人工授精及び精液の払下げ

家畜寄生虫の予防および駆除

繁殖障害の除去

診断及び治療

その他各種の衛生指導

家畜衛生車運用費 346 272

各種検査、予防注射、家畜伝染病発生畜舎の消毒、衛生思想の普及向上等の目的で家畜衛生車を運用する

家畜衛生対策費 1,222 906

ダニ発生状況調査費 280 140

ピロプラズマ病の媒介をするダニについてその発消長を調査するため、ダニ発生状況調査を実施する。

動物用薬事業費 117 194

薬事法及び動物用医薬品等取締規則に基づいて、製造、販売業者の登録、指導、薬事監視等を行なう。

栄養繁殖障害防除費 394 392

乳牛の栄養障害に起因する繁殖障害、その他各種障害を防止するために乳牛を生化学的に検査し、障害を早期に発見し、防除のための指導啓蒙を行なう計画である。

放牧衛生対策費 431 180

牧野におけるダニの駆除を行なう。

家畜人工授精所費 3,332 2,767

家畜人工授精用種雄畜をけい養し、県中南部家畜保健衛生所15ヵ所をサブセンターとして、家畜人工授精組織を確立する。

家畜衛生試験所費 144 169

家畜伝染病の予防および家畜の疾病について、試験研究調査を行なう。

飼料検査所費 300 314

家畜の振興にともなう流通飼料の急激な需要増大に対応し飼料の収去検査等を行ない品質の保全と公正な取引をはかる。

乳牛育成場費 1,335 2,044

乳牛の受託育成と大規模草地の管理を現地で実証的に行ない酪農経営の積極的な改善をはかる。

畜産試験場費 39,508 34,068

畜産に関する試験研究機関の運営に要する経費で

岡山畜産便り 1963.08

その内訳は次のとおりである。

養鶏試験場費 12,155 11,886

養鶏にかんする試説研究、種鶏の改良配布、経済検定、及び養鶏技術の普及浸透を行なう。

酪農試験場費 16,064 10,961

酪農にかんする試験研究、飼料作物及び牧草の栽培試験、ランドレース種の飼養試験、人工授精等を行なう。

酪農試験場酪農経営改善指導所費 1,237 1,184

酪農経営モデルの展示及び指導を行なう。

中国酪農講習所費 398 498

健全な酪農家の育成をはかるため酪農に関する指導講習を行う。

和牛試験場費 9,654 9,539

和牛に関する試験研究、優良牛の改良配布、肥育試験及び和牛技術の普及浸透、家畜の診療、人工授精を行なう。

酪農大学校費 12,135 12,921

酪農に関する知識及び技能を修得させ、健全な酪農経営者を養成する。

畜産施設整備拡充費 2,487 45,254

前年度に引き続き畜産関係施設を整備するためのもので、内訳は次のとおりである。

- 1、酪農試験場 クーリングタワー
- 2、和牛試験場 場道補修
- 3、酪農大学校 サイロ ミルカー
- 4、食肉市場 汚物焼却炉

繰 出 金

県営食肉市場への繰出金 7,795 9,930

特別会計

岡山県営食肉市場費 25,499 18,459

肉畜の流通機構の改善をはかるための食肉市場及びと畜場運営費である。